

令和元年度第1回久留米市地球温暖化対策協議会議事録

1. 日 時 令和元年11月21日 木曜日 14時00分開会 15時42分閉会

2. 場 所 環境部庁舎 会議室

3. 出席委員

会長	藤田 八暉	久留米大学 名誉教授
副会長	吉永 美佐子	高齢者快適生活づくり研究会 代表
	大内田 秀範	九州電力株式会社久留米営業所 営業グループ長
	門田 修	久留米ガス株式会社 総務部長
	島添 勝博	久留米造園建設業協同組合 理事長
	進藤 仁子	けやきとアートの散歩路 代表
	高橋 和子	福岡県地球温暖化防止活動推進員
	高松 健司	西鉄バス久留米株式会社 代表取締役社長
	辻 勝也	福岡県地球温暖化防止活動推進センター センター長
	富澤 章	株式会社ブリヂストン 九州生産本部総務部長
	山口 佳苗子	福岡県北筑後保健福祉環境事務所環境課地域環境係長
	山田 佳名子	久留米市農業協同組合 総務企画部企画広報課
	山村 公人	福岡県地球温暖化防止活動推進員
事務局	甲斐田 忠之	環境部部長
	原武 泰将	環境部次長
	春木 博文	環境部環境政策課長

4. 欠席委員

	古賀 清	久留米市立小学校長会 久留米市立荒木小学校校長
	古賀 文雄	久留米市校区まちづくり連絡協議会 幹事
	小林 隆利	一般社団法人自然エネルギー振興会 代表理事
	高山 美佳	久留米まち旅博覧会 企画運営委員
	田中 美智子	6次産業化アドバイザー
	池鯉鮒 悟	久留米工業大学 教授
	内藤 美智子	久留米市健康福祉部 保健所長
	南波 優子	久留米商工会議所 会員サービス課長
	村田 潤一郎	福岡県トラック協会筑後支部 久留米分会長
	山下 浩子	久留米信愛短期大学 フードデザイン学科長
	若江 皇絵	NPO 法人くるめ日曜市の会 理事長

5. 次 第
- 1 開会
 - 2 委員紹介
 - 3 正副会長の選出
 - 4 議事
 - (1) 久留米市の平成28(2016)年度 温室効果ガス排出量について
 - (2) 久留米市役所エコアクションプランの取り組みについて
 - (3) 久留米市環境基本計画に基づく行動計画の平成30年度実績報告について
 - 5 その他
 - 6 閉会
6. 提出資料等 別紙のとおり
7. 会議内容 別紙のとおり

1 開会

2 委員紹介

前期の委員の任期が平成31年3月31日で終了したことから、新任の委員が平成31年4月1日から2年間の任期で市長から任命されたが、今回は改選後初めての協議会であることから、委員の紹介が行われた。

3 正副会長の選出

正副会長の選出について、委員より、前任の会長藤田委員と副会長吉永委員に引き続きお願いしてはどうかという意見があがり、満場一致で選出された。

4 議事

議題1 久留米市の平成28(2016)年度 温室効果ガス排出量について

春木環境政策課長 説明

藤田会長 : 只今の事務局の説明に対しまして、ご意見、ご質問はございませんか。

辻委員 : 今ご説明がありました温室効果ガス排出量は、新しい実行計画を策定する前の積算で計算されたということで、新しい実行計画と前の計画では算出の積算方法が変わっていると思いますが、何が一番変わったのか教えていただければと思います。

春木課長 : 温室効果ガス排出量の算定につきましては、国のマニュアルに基づいて算出しております。旧計画と新しい計画で算出方法を変えておりますが、計算方法を案分していたものを久留米市の実績に基づくものに変更したり、新たに鉄道分野を含めたりしております。細かい部分につきましては、後ほど説明させていただきます。

藤田会長 : 環境省で「地方公共団体実行計画策定・実施マニュアル」の改訂版を平成29年に作成しております、今回の実行計画もそれに拠って策定されております。

その他ございませんか。市の方から自立分散型エネルギーシステムについての補助、エネファームの関係について説明があり、設置を進めているが補助申請の枠にも余裕があるとのことでしたが、久留米ガスでの取り組みはいかがでしょうか。

門田委員 : 目標を掲げまして設置の促進に取り組んでおります。戸建てのお客様はもちろん、マンションなど集合住宅のお客様にも営業をかけまして、設置が進むようまだまだですが取り組みを進めております。

藤田会長 : その他、何かございますか。

山村委員 : ガスに関してですが、産業用のボイラーや非常用電源は重油を使っているところがほとんどでしょうが、熱の回収も含めて是非ガスが普及すればいいと思っていますところ。先ほど市から事務事業編の中でコージェネレーションシステムのこと説明がありましたが、今後の非常用、産業用などのガス普及の取り組みについてお尋ねします。

門田委員 : 産業用につきましては、コージェネレーションシステムで発電しながら熱源を供給する取り組みは、環境に一番いい方法ですので最優先で考えております。燃料転換の具体例としまして、今年供給区域を拡張して、12月か1月に都市ガスへの燃料転換をさせていた

だくお客さまが予定されています。

- 山村委員 : LNG（※液化天然ガス）の対応もできるのでしょうか。サテライトなど。
- 門田委員 : サテライト基地をつくるという事例も他社の都市ガス事業者ではございます。ガス導管から距離がある場所については、LNGをローリーで供給して気化する形になります。
- 藤田会長 : その他、よろしいでしょうか。
- 辻委員 : 区域施策編の進行管理について PDCA サイクルを回すという計画であり、進行管理としてはいいと思いますが、チェック点検のところに各施策の進捗状況の把握というのがございます。これは中に記載の施策一つ一つについて把握するのでしょうか。それとも取り組み指標であるエネファーム普及率や、くるめエコパートナーの登録数などを把握するという事なのでしょうか。
- 藤田会長 : この計画の実施につきましては、各主体がそれぞれの立場で施策、対策の取組を推進することとしております。そこで、この計画に基づいてどういうことを実施しているかということ、各委員からこの会議でお話いただいたりしております。それも踏まえて計画の進行管理について、どうするのかという趣旨であるかと思っております。事務局からお願いいたします。
- 春木課長 : 今回の報告につきましては、旧計画の報告で具体的な取り組みはありません。この計画の大きな目標である温室効果ガス排出量は数字だけの報告になりますので、新計画につきましては、成果指標、取り組み指標の報告や、具体的な市の事業につきましては、上位計画の「環境基本計画」行動計画の中で、取り組みを報告していきます。後の議題でも報告いたしますが、地球温暖化対策実行計画と指標等がすべて一致するわけではございませんが、行動計画であげておりますそれぞれの事業について、各部より毎年の実績を集約し進捗を把握していく予定です。また進捗管理にあたりましては、当然この協議会にて報告いたしますが、その前に全庁的な会議であります推進本部にて、それぞれの施策の進捗状況を報告し、チェックをしていきたいと思っております。
- 藤田会長 : 後ほどの議題にも関連してきますので、このへんでよろしいでしょうか。その他特にならなければ、議題の1、久留米市の平成28（2016）年度 温室効果ガス排出量について、ご了承いただいたものとさせていただきます。

議題2 久留米市役所エコアクションプランの取り組みについて

春木環境政策課長 説明

- 藤田会長 : 只今の事務局の説明について、質問やご意見をお願いします。
- 山村委員 : 温室効果ガス排出量について、電気についてですが、CO₂の排出係数に左右され、いくら省エネを頑張ったとしても上がったり下がったりすることは、構造上仕方ないのでしょうが、環境省と経産省が再エネの主力化ということでチームを組んでやっています。例えば再エネとかガスのコージェネとかCO₂換算ではなく、絶対値のkWhとかで目標を掲げるのはどうかと思っているところです。まだ決定はできないと思いますが、そういったものがあればCO₂排出係数にとらわれずに推進することができると思います。エネルギー基本計画に関連してくると思いますが、検討いただければと思います。

藤田会長 : エネルギー使用等に伴う温室効果ガス削減の取り組みについて、再生可能エネルギーの取り組みなどを目標に掲げることの提案をいただきました。関連して各主体での取り組み状況について今後ご報告いただければと思います。その他特になければ、議題2はご了承いただいたものとさせていただきます。

議題3 久留米市環境基本計画に基づく行動計画平成30年度実績報告について

春木環境政策課長 説明

藤田会長 : ただいま事務局から久留米市環境基本計画に基づく行動計画平成30年度実績報告について説明がございましたが、質問やご意見をお願いします。

高橋委員 : 私もクリーンパートナーをやっておりまして、私の友達でも、もう年なのでやめるといふ方も何人かいらっしゃいます。小学校などで子ども達にごみについて、教室の中から外から堤防からきれいにしようとお話を回っています。学校の親父の会、父親の集まりにもお声かけをし、子どもさん達全部で小学生から中学生にも入ってもらいながら、クリーンパートナー活動を頑張っております。

藤田会長 : クリーンパートナー活動を頑張ってください、ありがとうございます。

山口委員 : 今 B 評価の2点についてご説明いただきましたが、どちらにしても目標に達していない、自立分散型エネルギーシステム補助金はまだまだ額に達していないとのことでした。なかなかこういったことは啓発してやってもらうというのが難しいことで、環境啓発につきましては私も担当していますが、人を集めるところなどに苦労しているところです。久留米市ではクリーンパートナーについては、できる限り若い人の啓発などイベント的なものを催したりして取り組まれているとのことでしたが、補助金については、広報で呼びかけるなどどのような形で行っていらっしゃいますか。

春木課長 : 自立分散型エネルギーシステム補助金につきましては、昨年度は一千万円ほどの予算枠が7月から始めて大体3ヶ月で終了するという状況でした。今年度は少し補助額を下げ、対象を広げてなるべく多くの方に申請していただけるようにしております。特に今年につきましては FIT の買い取り期間10年が終了する方が初めて出てくるという状況でしたので、蓄電池の需要を多く見込んでおります。現在のところ予算の半分ほどしている状況です。これについては、HP での広報とともに、住宅メーカー、エネファームでありましたら久留米ガスなどの事業者を中心にした PR と、直接市民への PR と両方行っております。

島添委員 : 初めて参加させていただき、皆さんが真剣に取り組んでおられ感心しております。クリーンパートナーの件ですが、市長との懇談会の中で、団体、企業からクリーンパートナー事業、河川ごみ拾いでは会社名や名簿も以前は出していたが、今年から団体名と人数だけ出している状況であり、ボランティア精神が足りないのかもしれませんが、休みの日に出てきて活動しているので、加点なりそのような制度はないのかという意見が出ています。公務員は公費で出ているのに、市民はボランティアで参加しているわけです。水と緑のまちということで、市の工事などお世話になっており、ごみ拾いなども行っているわけですが、久留米市のために活動している事業者は差別化を図ってほしいという意見が出ていま

す。なぜかという、価格競争の時代となりいつでも最低金額の取り合いで、なかなか企業利益を生まない発注状況があります。環境問題に取り組むこの場でいうこともふさわしくないかもしれませんが、クリーンパートナーの件で思ったことを話しております。

藤田会長 : 活動していただいていることに何らかのものがあればということで、表彰なども行われているようですが。

島添委員 : 表彰も市民の方には嬉しいことかもしれませんが。

藤田会長 : 今ご発言いただいたことで地球温暖化対策との関係でいえば、温室効果ガスの排出量を削減していくとともに、あわせて吸収量を増大させていくということで、樹木、緑を増やしていく、先般久留米市の緑の基本計画改定の際も樹木の気候緩和の機能などそういう面でも取り組むべきだということで、今回の計画にも反映しています。久留米市は植木の三大産地の一つということですが、街なかの樹木が減ってきているような気がしますし、そういう意味でも取り組みを評価していかなければいけないとは思っております。

島添委員 : なぜ先ほどこのようなことを申したかといいますと、先日筑後川のノーポイ運動に参加しましたが、業者の参加が少ないです。アピールする意味で参加してあったのかは分かりませんが、会社名も出ない、団体名は出ていましたが、団体で参加している方も少なかったようです。参加が減っていると聞きましたので。

春木課長 : ノーポイ運動などもあると思いますが、このクリーンパートナーはどこでも簡単にできるボランティア制度でございまして、当然事業者さんや一人で頑張っている方もたくさん登録していただいています。そういう方には表彰制度もありますし、それ以外にも活動している場所に表示板を立ててPRをしていただくなどの支援はしていますが、具体的なポイント制度などは、今のところない状況です。

高橋委員 : 私は43年くらい前から毎日コツコツごみ拾いをしてきました。市にごみの処分を頼んだところそれは堤防なので国土交通省にと言われ、国土交通省に言えばそれは市の分が混ざっていると言われ、仕方がないので自分で500円払って上津クリーンセンターにトラック半分ほどを毎日運びました。黒いビニール袋も自前で準備し、自分が行けないときは夫に頼んで、冷蔵庫とかタイヤとか今からは想像できないごみがたくさんありました。毎日拾い続けて43年になりました。最近は毎日ではないですが、クリーンパートナーはボランティアの気持ちではないかと思えます。国土交通省の方と当時の市長とでこういう制度を作ってはどうかということで話し合いをされ、平成14年7月20日にクリーンパートナー制度が始まりました。金銭というよりはそういう気持ちでしてきたつもりです。失礼しました。

藤田会長 : あとは花と緑の関係で活動されている進藤委員、何かございませんか。

進藤委員 : けやきとアートの散歩路は、景観や環境を考えて緑化をしていきたいというグループです。それをアートで表現しようということで、9年目になりました。今、まちなか美術館というイベントをしており、うちのギャラリーでもけやきの木をアーティストに描いていただいたりして、木の重要性を表現していきたいと活動しています。他にも寺町など歴史のあるところでも表現したりしていますので、環境とアートですが、こういう取り組みもあるというのを見ていただければと思います。

藤田会長 : 久留米市環境基本計画に基づく行動計画平成30年度実績報告について何かご質問ございませんか。

辻委員 : 説明された資料の事業名No.3の防犯等設置推進事業ですが、これは基本目標1の中にありますので、低炭素社会の構築の目標の一つになろうかと思えます。この防犯等設置推進事業という言葉だけを読みますと、住みよいまちづくりというようなイメージがあり、よっぽど基本目標4の中に入れるべきなのではと思いましたが、内容をよく見ますと防犯灯のLED化でした。この事業の後にカッコ書きでLED化と入れないと基本目標1に合致しないのではないかと思いました。

もう一つ、先ほどから環境美化促進事業について言われていますが、今話題となっております海洋プラスチックごみ対策に、市民の方がどう関わっていけるかという、簡単なことなのですが、道端のごみ拾いだと思えます。海洋プラスチック問題は、発生源そのものから考える部分はあるかと思えますが、大雨が降れば、ごみが一気に川、海に流れてしまいますので、やはり道に落ちているごみを自然に拾う習慣をつけるという意味で、クリーンパートナー活動に市民が取り組まれています。小さい子どもさん達、小学校中学校の環境教育の一環として、学校周辺のごみを拾うということをもっともっと徹底させていけば、大人になってからごみを捨てるという行為を自然となくしていけると思えます。学校と連携し、学校でももっとこのような活動を広くやっていただけたらと個人的な意見ですが思えます。

藤田会長 : 1点目については温室効果ガス排出削減という観点からLED化を進めていくという柱があり、その個別事業名でこういう形になっていますが、何か分かりやすくする工夫は必要なのではと思いました。他に何かございますか。

山村委員 : 今防犯の話が出ましたので、防災というか、千葉県で一斉に停電が長く続いたということがありましたが、詳しくは分かりませんが、どこかがやられると全部停電するといったときに、今環境省の補助事業をみると自営線を含めてマイクログリッドでつないだり、再生可能エネルギーとつないだり、ガスコージェネにつないだり分散型電源という施策を国としても進めていると思えますが、CO₂削減と直接関係するところはないところもあるでしょうが、今後どのように施策に反映されるのか気になっているところですので、もしよろしければ。

藤田会長 : 非常に大事なテーマであると思えますが、事務局どうですか。

春木課長 : まず防災対策を含めた自立分散型エネルギーシステムの考え方ですが、先ほど説明しましたとおり蓄電池等への設置への補助制度により家庭への普及を進め、停電時に使用してもらうことで災害に強いまちづくりを進めている状況です。そのほかZEB化事業の取り組みについては後ほど説明します。

藤田会長 : それでは、久留米市環境基本計画に基づく行動計画平成30年度実績報告については、以上でご了承いただいたものといたします。

5 その他

藤田会長 : それでは、議題その他に移ります。その他、関連しまして市で特に取り組んでいること

がありましたら報告をお願いします。

春木環境政策課長 今年度実施している下記の事業について説明

- ・公共建築物 ZEB 化事業
- ・COOL CHOICE の取り組み

藤田会長 : 環境政策課でもいろいろと取り組んでいただいております。

山村委員から環境省の補助金について何か説明できる範囲でございませうか。

山村委員 : 昨年閣議決定された国の環境基本計画の中で、地域循環共生圏というものがありまして、これは災害や自然資源活用などで地域が持続的な発展ができるように、環境と経済と社会を統合的に取り組みできないかというモデル事業です。全国で35ありますが、その一つに選ばれまして今取り組んでいるところです。今年度は構想段階ですが、環境省が計画に基づいていろいろな予算をたてられているので、それに即した形で私も今いろいろな事業の構想を練っているところです。

藤田会長 : そういった事業が地球温暖化対策実行計画の推進に役立っていけばいいと思います。その他委員のみなさんからこういった取り組みをしていますということがございましたら、お願いいたします。

高松委員 : 特別目新しい取り組みということではございませんが、従来から私どもバス事業を行う中で、アイドリングストップの励行をしております。これは社内ではエンジンカットという表現を使っておりますが、基本的に信号停止等で30秒以上停車する場合はエンジンを切るように乗務員には指導を行っております。もともとの発想はエコというよりもコストカットで始めたものですが、結果的にエコにつながるということで一石二鳥ではございますが、現在社内でも強力で推進しております。車両ごとに例えばエンジンカットを何回やったか、急制動、急発進を何回やったかなどのデータが取れるようになっていきますので、そういったデータを基に乗務員にもっとなめらか運転を行うよう個別指導を行い、エコにつながるような活動を行っております。

藤田会長 : 運用面で環境にやさしい運転など取り組んでおられるとのお話でしたが、車両の関係では、久留米の方では低公害車の導入などそのような検討は進んでいませんか。

高松委員 : 福岡では電気バスの試験的導入を行っていますが、コスト面や走行距離に限られるということなどで、まだ実用化には難しいと聞いております。まだ従来の燃料に代わるようなものでの実用化は厳しいものがあります。

藤田会長 : 久留米でもそういった取り組みを進めていただければと思っております。富澤委員、いかがですか。

富澤委員 : 特に最近新しいことを行っているということではないのですが、従来から各事業所ごとに削減目標内におさめる、後はいろいろな資源を余り使わないということで、工場内で使う廃油をリサイクルすることを環境担当が実用化しております。無駄を出さないということで久留米工場から始めています。

藤田会長 : 山田委員いかがでしょうか。

山田委員 : 要望ですが、いつもこの会議の資料が多いと思っております。地球のことについて

議をしているのに、無駄とは言いませんが紙が多く、ペーパーレス化の時代ですので、タブレット導入など今後はそういうふうにした方がいいのではと思います。

藤田会長 : 私たちの年代にはタブレットなどでの会議は難しいところもありますが、今後検討していただきたいと思います。それではその他につきましては、各委員から取り組みを発表していただきましたので、終了ということでよろしいでしょうか。今後も各取り組みを参考にして、実行計画の実施に頑張ってくださいと思います。

それでは事務局から他に何かありますでしょうか。

春木課長 : 今意見が出ましたが紙の資料が多いということにつきまして、市役所内でもコピー用紙枚数が増えている状況もありまして全庁的にペーパーレス会議を進めております。また、電子決裁システム導入も準備が進んでいる状況です。今度の新しい計画も見いただければ分かりますが、市役所内で40%削減するという目標を立てております。情報発信方法も、エココのような紙媒体のみではなく変えていきたいと思っております。また会議に際しまして、先ほど言われましたように、今海洋プラスチック問題が大きな問題となっております。本日はそういったことを考慮せずにペットボトルを出しました。申し訳ございませんが、次回からは必要に応じてマイボトル持参をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

藤田会長 : 環境省の会議でもマイボトルとなっておりますので、次回からはそれをお願いすることにしたいと思います。

6 閉会

藤田会長 : それでは、本日予定しましたところの議題は全て終了いたしました。本日の円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

これをもちまして、令和元年度第1回久留米市地球温暖化対策協議会を閉会とさせていただきます。

以上